

平成20年度 日本家政学会

色彩・意匠学部会報

No. 5

発行日 平成21年3月31日
発行人 日本家政学会色彩・意匠学部会編集発行
事務局 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
東京家政学院短期大学被服構成学立体研究室（井澤）
TEL：03-3262-2692 FAX：03-3262-2174

《平成20年度総会報告》

平成20年8月25日（月）、琵琶湖ホテルにおいて「平成20年度総会」を開催、以下の議事について報告、検討を行い、承認された。

議事

平成19年度事業報告

1. 総会

平成19年8月23日（木）ウィルあいち

2. 役員会

平成19年8月23日（木）ウィルあいち

平成20年3月8日（土）文化女子大

3. 連絡懇談会

平成19年5月13日（日）長良川国際会議場（日本家政学会第59回大会会場）

4. 平成19年度夏季セミナー

平成19年8月23日（木）～24日（金）ウィルあいち

＜プログラム＞

●8月23日（木）会場：ウィルあいち

- ・講演 1) 「応用色彩の諸様相と応用行動色彩学 ―主として色彩の視認性・誘目性・可読性を中心として―」

講師：中京大学 神作博氏

- ・講演 2) 「カラーユニバーサルデザイン：コンセプトと実践」

講師：豊橋技術科学大学 中内茂樹氏

●8月24日（金）会場：七宝町七宝焼アートヴィレ

ッジ（愛知県海部郡七宝町）

- ・七宝焼き体験（プローチ製作）
- ・尾張七宝製作工程見学（動態展示ゾーン）
- ・講演 3) 「七宝焼きについて」

講師：七宝町七宝焼アートヴィレッジ

小林弘昌氏

- ・七宝焼展示室見学・体験作品引渡し

5. 情報交換会

平成19年8月23日（木）ウィルあいち

6. 共同研究打ち合わせ

平成19年8月23日（木）ウィルあいち

7. 講習会

平成20年3月8日（土）文化女子大学

8. 平成19年度役員構成

部会長：橋 喬子

副部会長：橋本令子、成田巳代子

常任委員：

＜庶務＞石原久代、畑久美子、内藤章江

＜会計＞井澤尚子、佐々木由美子

＜会報＞武井玲子、伊藤陽子、花田美和子

＜セミナー＞橋本令子、石原久代、内藤章江

＜共同研究＞代表：武井玲子、橋本令子

＜顧問＞吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝、渡邊芳道

＜監事＞斎藤祥子、芦澤昌子

＜30周年準備委員（実践集）＞芦澤昌子、斎藤祥子、

盛田真千子、田岡洋子、長塚こずえ、井澤尚子

9. 平成19年度会計報告

平成19.4.1～平成20.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	55,487	管理関係費	16,412
部会費	42,000	事業費関係	438,079
シンポ・講演参 加費	426,550	次年度繰越金	69,546
合計	524,037	合計	524,037

以上の報告通り相違ありません。

監査 芦澤 昌子 印（平成20年4月10日）

斎藤 祥子 印（平成20年4月10日）

平成20年度事業計画

1. 総会

平成20年8月25日（月）琵琶湖ホテル

2. 役員会

・平成20年8月25日（月）琵琶湖ホテル

・平成21年3月(春季講習会時)

3. 連絡懇談会

平成20年6月1日(日)日本女子大学(日本家政学会第60回大会会場)

4. 平成20年度夏季セミナー

平成20年8月25日(月)~26日(火)琵琶湖ホテル・太田藤三郎組紐工房

5. 情報交換会

平成20年8月25日(月)琵琶湖ホテル

6. 共同研究打ち合わせ

平成20年8月25日(月)琵琶湖ホテル

7. 講習会

平成21年3月予定

8. 平成20年度役員構成

部会長 : 橋 喬子

副部会長: 橋本令子、成田巳代子

常任委員:

<庶務>石原久代、畑久美子、内藤章江、小町谷寿子

<会計>井澤尚子、佐々木由美子

<会報>武井玲子、花田美和子

<セミナー>成田巳代子、田岡洋子、宮武恵子、

橋 喬子

<春季講習会>小吹史子、蒲池香津代、畑久美子

<共同研究>橋本令子、伊藤陽子

<顧問>吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝

<監事>斎藤祥子、芦澤昌子

9. 平成20年度予算案

平成20.4.1-平成 21.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	69,546	通信費	18,000
平成20年度 部会費	40,000	事務費	5,000
平成20年度夏 季セミナー会費	300,000	印刷費	2,000
		会議費	20,000
		夏季セミナー 開催費	300,000
		雑費	1,000
		次年度繰越金	63,546
合計	409,546	合計	409,546

平成20年度総会議事録

日時 : 平成20年8月25日 17:00~17:45

場所 : 琵琶湖ホテル 会議室

司会 : 田岡委員

参加者数 : 14名

I. 部会長挨拶

橋部会長より開会の挨拶がなされた。

II. 報告・審議事項

1. 平成19年度事業報告

石原委員より、平成19年度事業報告がなされた。

2. 平成19年度色彩・意匠学部会夏期セミナーの報告

橋本委員より、ウィルあいちにて行なわれた夏季セミナーの報告及び決算報告は、前回の総会にて報告し了承されたこと、平成19年度会報に載せ、本部へも報告済みであることが報告された。

3. 平成19年度会計報告

井澤委員より、19年度の決算の収入の部と支出の部について報告された。

4. 平成19年度会計監査報告

斎藤委員より、芦澤監事とともに、平成19年度の色彩・意匠学部会の会計監査を行なった結果、収支決算および現金・預金の残高が正しく示されていることが報告された。

5. 平成20年度事業計画案

小町谷委員より、平成20年度の事業計画案が報告された。

6. 平成20年度予算案

井澤委員より、前回の総会にて報告された平成20年度の予算案の収入の部の修正案が提案された。平成19年度の予算では事業関係費の予算が0円に対しての決算があり不適合であるため、平成20年度の予算から平成20年度夏期セミナー会費30万(2万×15名)を加える案が報告され、今回の役員会で承認された。

7. 春季講習会計画案

小吹委員より、「2009年エクセル講習会Part2」(案)は、梶谷先生を講師の候補者とし、会場は未定であることが報告された。これは前回の会場である文化女子大学では今年度PCの入れ替え予定があり、10月にならないとソフト面を含めPC施設が使用可能かどうか不明なため、今後、セミナー担当者で調整する旨が報告された。

8. 平成19年度色彩・意匠学部会会報について

武井委員より、平成19年度色彩・意匠学部会会報が3月31日に発行され、写真も加え充実した内容となったことが報告された。

9. 平成20年度色彩・意匠学部会役員について

橋部会長より、平成20年度役員案について報告され、承認された。

10. 平成20年度夏期セミナーについて

成田委員より、平成20年度夏期セミナーについて、日程、内容について報告された。

11. 共同研究について

橋本委員より、「色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究」について、日本家政学会第60回大会にて2テーマ報告し、今後はカラーサンプルの抽出、バリエーションと新配色カードを用いた正常者における認識、衣服の表示における慣用色名も加えた色名

の認識について調査し、より見やすい組み合わせについて分析検討し、来年度の学会にて発表する予定が報告された。

伊藤委員と武井委員より、「ユニバーサルデザインに関する研究」について同学会で2テーマ発表し、今後は形と色についてこれまでに収集した資料分類と分析を行ない、必要であればアンケートも加え、見やすい色を検討していくことが報告された。

12. 30周年記念誌について

芦澤委員より、30年前に発足された本部会について、この2年間で集大成を行ない、前半は、夏期セミナーや講演会について、後半は共同研究の論文を編集したことが報告された。印刷部数は必要最小限に抑え、印刷費は約20万円であった。1冊1000円で、これまで部会員で34冊を購入し、3万4千円の収入があった。前総会から引き続き、退会者、退職者の連絡先の分かる方があれば禰部会長へ知らせることとなった。

13. その他

平成21年度夏期セミナーについて、武井委員より、栃木県の花王ヒューマンカウンセリング研究所のおむつと生理用品の工場見学(案)が候補としてあげられ、更に検討することとなった。

III. 閉会挨拶

成田副部会長より閉会の挨拶がなされた。

《夏季セミナー報告》

平成20年度(社)日本家政学会色彩・意匠学部第30回夏季セミナーが平成20年8月25日(月)~26日(火)、琵琶湖ホテルで開催された。

25日は、琵琶湖ホテルで役員会、総会、吉岡幸雄氏の講演後、びわこクルーズ(ミシガンに乗船)にて夕食を楽しみながら、共同研究課題の説明、研究方法などの討論、情報交換会を実施した。

26日は、草木染め、手組組紐の技術保持者として大津市の無形文化財に指定されている4代目太田藤三郎組紐工房見学と組紐製作を体験した。

<プログラム内容>

- 8月25日(月) 会場：琵琶湖ホテル
- 12:00~13:00 色彩・意匠学部役員会
- 13:00~13:30 受付
- 13:30~13:35 開会挨拶
- 13:35~17:00

講演1)：「源氏物語と日本の色」

講師：染色史家 吉岡 幸雄氏



写真上：染色史家 吉岡幸雄氏を囲んで

写真下：平安王朝の色の再現

<コーヒータイム>

- 17:00~17:45 日本家政学会色彩・意匠学部
総会
- 17:45 浜大津港へ
- 18:00 びわこクルーズ
(ミシガンに乗船)
- 18:00~21:00 夕食(ハックルベリーディナー
ビュッフェ)
情報交換会

●8月26日(火)

太田藤三郎組紐工房見学と体験(草木染め、手組組紐の技術保持者、大津市の無形文化財に指定、4代目)

- 10:00~12:30 工房見学と組紐製作体験
- 12:45~ 昼食(うなぎのかねよ)
- 14:00 解散



製作体験した組紐を手に記念撮影

＜講演内容＞

講演1) 「源氏物語と日本の色」

講師：染色史家 吉岡幸雄氏

江戸時代から4代続く染屋「染司よしおか」に生まれ、大学卒業後、昭和48年美術図書出版の「紫紅社」を設立するが、昭和63年に生家の5代目当主として、父のあとを継ぐ。以来、日本の染師が古来から行ってきた各種の植物から色を汲みだす「植物染」で、豊かで透明感あふれる昔ながらの「日本の色」を追求している。薬師寺や法隆寺の装束の復元を始め、代々、奈良の東大寺のお水取りを彩る造花の椿用の紙を染める等、古い社寺の伝統行事の染色にも携わっている。

今年は「源氏物語千年紀」にあたり、紫式部ゆかりの石山寺では、氏が再現された源氏物語の登場人物の衣装や絹織物が展示された。

植物染めは奈良、平安時代にピークを迎える。平安王朝の色の再現には、「源氏物語」は避けて通れないものであった。染色の手法は平安初期の宮廷の儀式や制度などを記した「延喜式」に従った。

互いの顔を見ることなく、ちらりと見える衣や手紙の色に恋心を燃やした時代、54帖の物語には、「若紫」「濃き薄き」「紫苑」「撫子」「女郎花」など、紫の色や季節感を表現した襲の色が、紫式部の見事な観察力と表現により記述されている。

展示の十二単や染色糸、各種植物染料を身近に手に触れさせていただき、貴重な体験と講演を拝聴できた。

講演2) 「組紐工房見学と組紐製作体験」

講師：太田藤三郎氏(4代目)

藤三郎組紐は慶応3年(1867年)に創業。近江逢坂山の関所跡付近に初代が米屋の傍ら、印籠の紐や組紐雑貨を商ったのが始まりで、時代と共に需要が増え、2代目の時に組紐専門店に転業、武具用の組紐に始まり、明治以降は帯締めや羽織紐など時代に合わせた組紐製品を手がけてきた。3代目が草木染に着手、その技術が高く評価され、草木染手組紐の技術保持者として、大津市無形文化財に指定された。

現在の当主は4代目で、草木染組紐を手がける日本で唯一の組紐店としてその技術を継承している。

工房では染色や染料のほか、丸台、角台、高台、綾竹台、内記台など組紐の説明をしていただいた後、角台を使った携帯ストラップの組紐製作を体験した。各自好みの配色系を選び、2種類の組み方に挑戦、完成したオリジナルな作品を手に皆、達成感で満足気な表情だった。

(夏季セミナー幹事 成田巳代子)

《 色彩・意匠学部会共同研究について 》

◆ユニバーサルデザインに関する研究

平成17年度夏季セミナーにて「ユニバーサルデザイン」をテーマに古川雲雪氏による講演ならびにエイジレスセンターの見学を実施した。それらの知識・情報をもとに研究の発端として、平成18年9月～10月にかけてユニバーサルデザインに関する生活者の意識調査を実施し、ユニバーサルデザインに対する認識度や生活者が求めているものなど、その分析結果を日本家政学会第59回大会にて、下記演題にて発表した。

(1) ユニバーサルデザインに関する研究

－ 生活者意識の実態 －

成田巳代子(発表者)、井澤尚子、伊藤陽子、斎藤祥子、田岡洋子、畑久美子

(2) ユニバーサルデザインに関する研究

－ 問題点からのアプローチ －

橘 喬子(発表者)、芦澤昌子、蒲池香津代、武井玲子、長塚こずえ、花田美和子

平成18年度に引き続き、平成19年度も共同研究を継続し、結果を日本家政学会第60回大会にて、発表した。その概要を次に紹介する。

(3) ユニバーサルデザインに関する研究

－ 公共トイレに対する意識 －

畑久美子(発表者)、井澤尚子、佐々木由美子、長塚こずえ、成田巳代子、花田美和子、吉田千恵子

【目的】前回実施したユニバーサルデザイン研究の結果、公的設備に対する問題点や課題が多く抽出された。そこで、公共トイレを取り上げ、一般生活者を対象として公共トイレの利用前後の意識と行動実態に関するアンケート調査を実施し、色彩・意匠学の専門性からユニバーサルデザイン(UD)研究に資することを目的とする。

【方法】アンケート調査は、配置留置法にて2007年10月～11月、16歳以上の男女1480名を対象として実施。質問は基本属性と身体不自由の有無、公共トイレの使用目的、快適性・使用性、案内板について個室に入るまで・個室内・洗面所の設備・環境・視認性・使用性について、等全96項目に対して調査を行い、単純集計とクロス集計、他の解析を行った。

【結果】トイレの使用目的は、排泄以外に手洗い、化粧、歯磨き、乳幼児の世話、休憩など個室外での使用が高い

割合であった。快適性評価の高いトイレは、宿泊・ショッピング・飲食・文化施設などで、最も評価が低かったのは公園・道路であった。交通機関は快適と不快の評価に割れバラツキがあることがわかった。トイレ場所を示す案内板に対する評価は、見つけにくい、見えにくい、絵や文字が小さい等の項目で否定的回答が多く、視認性、誘目性、可読性などに関して再検討が望まれる。個室に入るまでと個室内の環境・設備では、床の汚れ等の衛生上の問題や個室数が少ない、使い捨て座面シート、荷物置場、手すり、消音装置、防犯設備が不十分等設備面の他に様式は開き状況がわからない、使用方法の絵文字の案内が見えにくい、説明不足等の不満も高い割合であった。使用目的としてニーズの高い洗面所に対しては、荷物置場、スペースが不十分、濡れや汚れ、水道の自動センサーがわかりにくい等、設備・環境等のハード面と使いやすさ等のソフト面に対する要望が高い結果を得た。

(4) ユニバーサルデザインに関する研究

— 公共トイレの視認性、使用性 —

武井玲子(発表者)、芦澤昌子、伊藤陽子、蒲池香津代、斎藤祥子、田岡洋子、橋 喬子

【目的】公的トイレに対する意識と行動実態に関するアンケート調査結果および全国各地の公共トイレ写真を分析・評価し、一般用公共トイレに対するユニバーサルデザイン(UD)要件を抽出し、今後の検討に資する。

【方法】アンケート調査時期・手法は第3報と同様である。クラスター分析、主成分分析などによる解析結果や公共トイレに対する要望(自由記述)及び全国各地165箇所の公共トイレを視認性、使用性の視点から撮影した写真と共に分析、評価を行った。

【結果】従来4Kと言われていた公共トイレは、快適性、衛生・安全面等全体的にレベルアップされていることが今回の調査で示唆された。但し、UD視点の評価から見ると、公園と新しい多目的ビルなど公共トイレの設置場所や設置時期(新旧)の違いによるUDレベルには大きな差が認められた。①トイレ表示やピクトグラムは、形、色、サイズなど種々様々であったが、視認性、可読性、誘目性等の視点から改善の余地があるトイレも認められた。②「トイレに入るまで」～「トイレ内」の環境・設備についてみると、階段や段座の存在、荷物置場・フック不足、設備の使用法のわかりにくさ、等の問題点や課題が抽出された。③トイレ個室様式は、衛生的、慣れなどの理由で「様式」53.6%、「和式」18.1%、「どちらともいえない」28.3%の割合で選択されていたが、入り口ドアへの様式表示の要望が多く認められた。④トイレの使用目的は排泄以外に「手洗い」59.8%、「化粧」25.0%、「着替え・着装チェック」22.0%、その他歯磨きや乳幼児の世話等多様であり、排泄だけを目的とした空間から脱却し、化粧ブース、休憩ブース等を併設することが示唆された。⑤UD視点においてレベルの高い多機能・多目的トイレに、一般用公共トイレのレベルがより

近づくことが今後の課題と考える。

(研究グループ代表：武井玲子)

◆色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究

平成19年度、夏季セミナーにおいて講演された“色覚異常”の内容をふまえ、今だ着眼されていない衣服の色表示の改善方法を社会に向けて提案、発表するため、衣服におけるカラーユニバーサルデザインについて研究を進めることとし、平成19年度は、衣服自体の表示方法、店舗での販売方法、消費者の意識など現状把握するための実態調査を行い、結果を日本家政学会第60回大会において発表を行った。その概要を次に報告する。

(1) アパレル商品における色表示の現状

橋本令子(発表者)、内藤章江、石原久代、稲垣有美子、井澤尚子、田岡洋子、成田巳代子、芦澤昌子

【目的】現在社会において「色」は重要な伝達手段となっているが、その色使いは正常色覚者を対象にして考えられ、これまで色弱者に対する配慮は皆無であったといわれてよい。これを解決するため2004年、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構が設立され、近年、多数の企業や団体から注目を浴び、路線図や案内図、オフィス商品、教科書など改善が進められている。しかし、衣服に関しては着目されていない。そこで本研究は、色弱者に配慮した衣服の色表示の方法について提案するため、アパレル商品に表示されているタグや品質表示に焦点をあて現状把握を行い、今後の基礎資料を得ることとした。

【方法】調査は2007年11～12月に行った。調査方法は、購入衣服(男性服33点、女性服63点)について、商品自体と商品タグ(縫いつけてあるもの、取り外し可能なもの)、値段タグ、品質表示に使用されている色を、配色カード199aをもとに照合し、実態調査した。

【結果及び考察】商品タグは2色～4色で構成されるものがほとんどである。タグの背景色と図色の配色関係は、いずれかに白、黒、灰が使用され、全体に濃淡色、明暗色、対照色の組み合わせが多く訴求効果をねらった配色とみられるが、色弱者に配慮している様子は読みとれない。値段タグは白地に黒文字表示であったが、この部分に極少数であるが淡黒、ブラック、グレー、ネイビー、カーキと記されたタグが存在した。しかしこの表示は、正常色覚者に対し類似した色に間違いが生じないように記したものであり、色弱者のために記したのではないと推察される。以上、アパレル商品の色表示は、色弱者に対しての配慮が皆無といわれてよいことが確認できた。今後は色弱者と正常色覚者が同様な立場で、衣服の色表示が識別できるよう実験を行う。

(2) 消費者と衣料品販売員の意識

内藤章江(発表者)、橋本令子、石原久代、稲垣有美子、井澤尚子、田岡洋子、成田巳代子、芦澤昌子

【目的】現在、様々な色の衣服が販売されており、私たちの衣生活を豊かにしている。しかし、色弱者は正確な

色情報を読み取れず、衣服の選択・購入に不便を感じていると思われる。そこで本研究は、衣服の色情報を誰にでも正確に伝達する方法を提案するために、衣料品及び衣料品販売店における色表示の現状を把握し、それらに対する衣服購入者（消費者）と店舗側（衣料品販売員）の意識を調査することにした。

【調査及び解析方法】調査は2007年11～12月に行い、調査対象者は、20～60歳代の衣料品販売員43名と20～60歳代の消費者254名であり、カラーユニバーサルデザインについての認知度や、衣服の色表示における配慮の必要性について意識調査を行った。解析には単純集計、分散分析（多重比較）、平均値の差の検定を用いた。

【結果及び考察】消費者、衣料品販売員ともに、カラーユニバーサルデザインの認知度は非常に低く、それらを導入している衣料品及び衣料品販売店は皆無であった。消費者にカラーユニバーサルデザインの意味を理解させ、衣料品や衣料品販売店に取り入れた方がよいか質問したところ、93%の人が「取り入れた方がよい」と回答した。しかし、同様の質問を衣料品販売員にしたところ、重要性は理解できても費用や手間の問題により「取り入れるのは難しい」と回答する人が40%を占め、早急な変革は困難であることが示唆された。

以上の結果から、色弱者に配慮した衣服の色表示を導入するには、カラーユニバーサルデザインの重要性を世間に周知させることが有効と言える。なお、アパレル業界では早急な変革が困難なため、まずは販売員教育に「色弱者の色の見え方」を導入するなどの意識変革が急務と言える。（研究グループ代表：橋本令子）

【お知らせ】

平成21年度色彩・意匠学部会夏季セミナー

平成21年度色彩・意匠学部会総会及び夏季セミナーを下記の通り、開催致します。部会員はじめ、部会員以外の方々のご参加も歓迎いたしますので、皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さいませ。

期日：平成21年8月24日（月）、25日（火）

会場：花王株式会社（栃木県）、御薬園（会津若松市）

申し込み・問い合わせ先：

〒963-8503 福島県郡山市開成3-25-2

郡山女子大学人間生活学科

TEL 024-932-4848

e-mail jaf02763@nifty.com 武井 玲子

色彩・意匠学部会規程

第1章 総則

第1条 この部会は色彩・意匠学部会と称する。

第2条 この会は、(社)日本家政学会の全国的な会員の交流をはかり、色彩・意匠の学術・研究の成果を高め、家政

学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第3条 この会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1) 研究会
- 2) 研究発表会・討論会
- 3) 講習会（セミナー）
- 4) 研修・見学会
- 5) 成果の印刷物配布
- 6) その他の必要とする事業

第4条 この事業の年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わりとする。

第3章 会員

第5条 この会は(社)日本家政学会の会員をもって構成する。

第4章 役員

第6条 この会の運営を円滑にするため次の役員をおく。

部会長	1名	(付1)
副部会長	2名	
監事	2名	
常任委員	若干名	

第7条 役員の職務は互選によって定め、総会の承認を得る。

第8条 役員の任期は2年とする。ただし再選をさまたげない。

第5章 会費

第9条 本会の会費は年額千円とする。

付則

この規程は昭和53年4月1日より施行する。

この規程は昭和58年8月26日より改定施行する。

この規程は平成元年8月22日より改定施行する。

この規程は平成15年8月28日より改定施行する。

申し合わせ事項

1. 役員の職務は庶務・会計・セミナー・企画の係を分担する。
2. 庶務・会計は会員の中から補佐を依頼することが出来る。
3. 事務局は会計責任者の勤務先住所とする。（付2）
4. 会計は会計責任者名で口座を開設する。

(付1)：部会長連絡先（平成19年4月1日から）

〒662-8555 兵庫県西宮市こしき岩町6-58

夙川学院短期大学 橋 喬子

TEL：0798-73-3775 FAX：0798-73-9136

e-mail：tatibana@shukugawa-c.ac.jp

(付2)：事務局連絡先

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

東京家政学院短期大学 井澤尚子

(部会費振込み先) 口座番号：0014-5-389316

口座名義：色彩・意匠学部会

＜編集後記＞ 米国から世界に波及した経済問題が、卒業生の就職活動に大きな影響を与えている。地球環境保全という環境のみならず経済も地球規模での健全な発展を期待せずにはいられない。そのために私たちが何をなすべきか、色彩・意匠学部会部会員の益々のご活躍をお祈りしております。

(担当：武井、花田)